

稲武山里体験推進協議会

調査団体名	： 稲武山里体験推進協議会	団体代表者名	： 大内政春
設立年	： 2005年	対応してくれた人の名前	： 村瀬登美
団体URL	： http://inabu-kankou.com/don_howto.html		
活動拠点	： 愛知県豊田市武節町針原15番地	調査員	： 宇野利幸、Siti Norbaizura Binti Md. Rejab、溝口裕太
取材日	： 2015年11月16日	レポート作成者	： 溝口裕太

活動内容

稲武山里体験推進協議会は豊田市稲武どんぐり工房を拠点に、こだわりを持つ地域のインストラクターと稲武を訪れる人々との出会いの場を体験プログラムを通じて提供している。ここでは、自然体験(面ノ木原生林ハイキング、川遊び)、農業体験(いも掘り、米作り)、工芸体験(竹細工、木端細工、ストラップ作り)、味覚体験(五平餅作り、そば打ち、こんにゃく作り)など様々な体験が準備されており、訪れるグループ、団体、家族の希望に応じてコーディネートすることでニーズに沿った体験プログラムを提案している。

キャッチフレーズ

稲武を訪れた人と地域の人との出会いをコーディネート

会のモットー(何を大切にしているか)

稲武を訪れた人に、稲武の風を感じてもらうことを大切にしている。そして、訪れる人のニーズに合ったプログラムを準備すると共に、工夫とこだわりを持つインストラクターとの出会いの場を設けることで、訪れた人と地域の人がお互いに素敵な時間を過ごせるお手伝いをする。

設立から現在に至るまで変化したこと

設立当初は他では出来ない本格的な体験(炭焼き)や、小中高校生を対象とした教育旅行を念頭にプログラムが開発された。こういったプログラムは、モニターツアーが開催されるなど旅行会社の関心を引くことはできたものの定着には至らなかった。そこで、道の駅(どんぐりの里いなぶ)に立ち寄った方が数時間で体験することが出来る体験を増やすなどプログラムの大幅な見直しと、訪れる団体や家族のニーズに沿った体験をコーディネートするようになった。

連携している団体・専門家・自治体など

豊田市(稲武どんぐり工房を所有)、いなぶ観光協会(稲武どんぐり工房を管理)

山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

稲武地域の里山資源の掘り起こしと、山村再生に欠かすことができない都市部の人々にこの地域を好きになってもらうことが活動の中心である。普段から各家庭で作られている五平餅やこんにゃく作りを訪れた人に体験してもらうことが、稲武地域の人や農産物の掘り起こしに繋がっている。大切なのは、稲武には大切な里山の資源が豊富に眠っているということ、地域の人々が自覚することである。また、体験プログラムを通じて稲武の風に触れた人々の中から、稲武に移り住んでくれる人や、頻りに遊びに来てくれる人が増えることが、山村再生に不可欠だと考えている。

現在直面している課題

今後も体験プログラムを維持し、拡大するために地域のインストラクターやかかわる人を増やさないといけない。また、インストラクターやかかわる人を増やすことが、この体験プログラムの認知度を高め、訪れる人を増やす結果に結びつくと考えている。

今後やってみたいこと

比較的短時間で体験できるプログラムのニーズが高まっていることから、新しい体験プログラムを開発し充実を図りたい。いまのところ、道の駅(どんぐりの里いなぶ)に訪れた人が、簡単に稲武の味覚や工芸に触れ合う機会が十分でないことやリピーターを増やすために、短時間かつ少人数(家族連れ)で体験できる石窯料理(ピザ作りや道の駅で購入した食材を調理して食べるなど)の企画を考えている。こういった取り組みが稲武の滞留人口を増やすことに繋がると考えている。

そのためにはどんな情報・人脈が必要か

今後も地域を訪れる人を維持し増やしていくには、魅力的な体験を準備することが不可欠である。その為のアイディアは地域の中に眠っており、地域文化の発掘が大切となる。しかしながら、地域の魅力的な文化は地域住民が気づかないことも多く、地域外在住の人や高校生・大学生との交流の中から発見することも多い。したがって、稲武を訪れる人と地域住民との交流をいっそう加速させたい。

主体的に情報を発信し、人を呼び込む方法として旅行業への登録が考えられる。今後は、いなぶ観光協会といっそう協力することで、こういったアプローチの仕方も検討していきたい。

チームオリジナルの質問

<質問内容>どんぐり工房へ訪れる人の地域や、年齢層はどのくらいですか？

<答え>豊田市域の人が最も多く、名古屋市、浜松市という大まかな構成になっている。数年前は、祖父母と孫という組み合わせが多かったが、最近は近隣のキャンプ場などへのアクセスの途中で、工房へ寄ってくれる家族連れが増えている。また、トヨタ生協の会員や子ども会などの親子連れが1回に100名程度参加される体験プログラムも年2~5回ほど開催している。

チームオリジナルの質問

<質問内容>人気な体験プログラムや、リピーターが多いものにはどういったものがありますか？

<答え>人気がある体験プログラムのひとつとして名倉川や根羽川での川遊びがある。当初は子供たちの安全管理面で非常に神経を使ったが、現在では安全面やプログラムの進め方などを勉強し軌道にのってきた。子供たちは箱めがねやタモを持って、時の経つのを忘れて楽しんでいる。また、リピーターが多い体験にはピザ作り体験がある。本格石窯を使いロケーションのよい開放的な空間で粉から自分で作って食べるので、とても人気なプログラムとなっている。

その他、伝えたいこと

最近では、稲武の子供たちも自然から遠ざかっている。安全面から下校時は寄り道することなく自宅へ帰る。家に帰ると都市の子供たちと同じように黙々とゲームをしていると聞く。子供たちが自然とふれあうことから遠ざかってしまった。この体験プログラムは、稲武を訪れた人にとっては貴重な経験になるかも知れないが、自然と遠ざかってしまった住民が、子供も大人も地域の自然と文化を思い起こす大切な機会になると思う。

また、自然は人間の思い通りにならない。それは、畑に実っているとうもろこしの収穫体験でも同様である。旅行パンフレットには開催日や、もらえるとうもろこしの本数が記載されているかも知れないが、天候によって期待通りにならないこともある。もちろん、訪れる人の期待に即した体験プログラムになるように最大限の努力は惜しまないが、すべてが人間の思い通りになるわけではないことを知って貰うことも自然体験プログラムの醍醐味かもしれない。

まずは稲武の風を感じて欲しい。時間に余裕があれば稲武の文化を体験プログラムから知って貰いたい。そして、稲武を好きになってくれた人が、頻繁にこの地域を訪れてくれると嬉しいし、この中から稲武へ移り住んでくれる人が現れるともっと嬉しい。

写真



豊田市稲武どんぐり工房
(明治12年の民家を移築)



取材の様子(村瀬登美さん)



どんぐり工房の内部



木端細工の見本